

# 新着図書からおすすめの5冊

(平成24年1月10日掲載)

貸出と予約の開始は**1月10日(火曜日)**、インターネット予約の開始は**1月17日(火曜日)**です。

『日本の地縁と地域力』

熊谷 文枝他 著

ミネルヴァ書房 刊

日本の地域的多様性、方言と地縁形成の大切さなど、復興の鍵となる「地縁と地域力」を解説。安否ネットワークの強化や遠野モデル、国内外の成功事例などを紹介し、地域の文化・社会的特質を活かした「きずな創造」を提唱する。著者紹介：アメリカ・ニューハンプシャー大学大学院社会学部博士課程卒業(Ph.D.社会学博士)。杏林大学客員教授。著書に『21世紀アメリカの社会問題』など。

請求記号： 361.4/Ku,33

『未解決事件(コールド・ケース)』

マイケル・カプーゾ 著

柏書房 刊

元FBI捜査官、犯罪心理学者、法医学アーティスト…。世界中から集まった探偵たちが失われた過去を取り戻す! 無償で未解決事件を捜査する組織「ヴィドック・ソサエティ」の活躍と、その創立者3人の半生を描く。著者紹介：1957年アメリカ生まれ。『フィラデルフィア・インクワイアラー』や『マイアミ・ヘラルド』のコラムニストとして、数々の賞を受賞。著書に『四本足の天使たち』『魔法の国からの使者』など。

請求記号： 368.6/C,16

『電気の缶詰を開ける話』

松下 清彦 著

講談社ビジネスパートナーズ 刊

入力より出力のほうが大きい発電機の開発に取り組む著者が、そのきっかけとなった発明家・木下博道との出会いや、「被災地に新たな工場を!」を目標に試行錯誤を続ける日々を綴る。

請求記号： 542.1/Ma,88

『公園・神社の樹木』

渡辺 一夫 著

築地書館 刊

ユリノキが街路樹として広まったのはなぜ? イチョウの木が信仰の対象になった理由は? 歴史の証人とも言うべき樹木を紹介しながら、都市における公園や神社の歴史やエピソードを解説する。著者紹介：1963年生まれ。東京農工大学大学院修了。森林インストラクター。農学博士。著書に『森林観察ガイド』『イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか』など。

請求記号： 653.2/W,46

『命はそんなにやわじゃない』

杉浦 貴之 著

かんき出版 刊

28歳で余命半年と宣告されながらも、夢を持ち続け、がんを克服。現在、がん克服者の手記などを掲載する雑誌『メッセンジャー』を発行する著者が、自らの体験、多くのがん克服者との出会いから導き出された答えを綴る。著者紹介：1971年生まれ。愛知県出身。命のマガジン『メッセンジャー』編集長。シンガーソングライター。2010年からは「命はやわじゃない!がんサバイバーホノルルマラソンツアー」を主宰。

請求記号：916/Su,48

※本の内容紹介は、図書館流通センター(TRC) MARCより引用しました。

[→バックナンバーはこちら](#)

[→新着図書の一覧はこちら](#)

[→インターネット予約・貸出についてはこちら](#)

[資料紹介へ戻る](#)

[佐賀県立図書館のトップページへ](#)